

いのちとまちを守る取組みを紹介 流域治水通信

川を守ることは暮らしを守ること。
できることから、始めてみましょう。



いのちを守る！田んぼダム

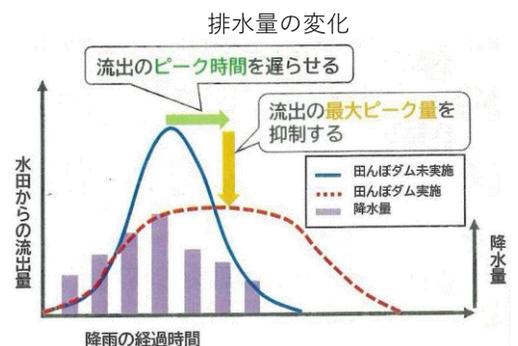
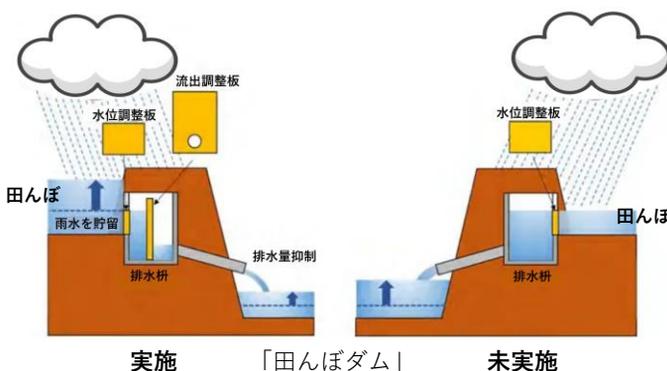
田んぼがダム？と思うかもしれませんが、水田が持つ貯水機能をダムに見立て、排水口に堰板などを設置して雨水を一時的に貯留し、流量を抑制する取組みのことで、ダム施設を造設するものではありません。

田んぼダムのポイント

- 田んぼの排水口に排水管より小さな穴の開いた調整板を設置し、水の流出を抑制することで、ダムの役割を兼ねた田んぼとなる。
- 多くの田んぼで取組むことで、大雨時に水を貯留させて下流域の洪水を軽減させる効果がある。
- 上流域、特に山間部で取組むことで、より効果を発揮する。



田んぼダム設置に必要な装置の一例



企業との連携協定 with 日本工営(株)

いわき市は、「流域治水」の推進に向けて互いに協力し、地域の水害の防止・軽減を目指すために、令和4年4月に、日本工営(株)と連携協定を締結しました。

これにより、同社の専門的な知見を活かした、安全・安心な暮らしの実現に向けた取組みが推進されています。



連携協定市ホームページ▶

◀日本工営(株)ホームページ



主な連携内容

- 流域治水の各種取組みに関する情報共有
- 防災力の向上に向けた先端技術の実証（AI洪水予測・衛星技術の活用など）
- その他流域治水の推進に関する取組（地域・企業等への周知啓発に関する連携）

連携による効果と狙い

いわき市

- ①最新技術を生かした避難判断の迅速化
- ②災害対応の効率化による職員の負担軽減
- ③周知・啓発の強化による地域防災力の向上

日本工営(株)

- ①地方都市のニーズに対する技術開発
- ②実証結果を踏まえた技術改良
- ③他都市への技術展開

これまでの取組み

最新技術で「逃げ遅れゼロ」を目指す！

久之浜・大久地区で、スマホや「見守りタグ」を使った新しい避難訓練を実施しました！要配慮者等の避難中の移動情報（時間・速度・経路）を明らかに。

データに基づいた、一歩先を行く「やさしい防災」が始まっています。



流域治水通信では、関係する市内の様々な取組みを紹介しています！

編集・発行

いわき市流域治水推進会議

事務局：いわき市役所 土木政策課 河川政策担当

TEL 0246-22-7492



▲バックナンバーはこちら